

安曇野パーマカルチャー塾8期生

Tシャツ制作への道のり



Tシャツチーム：中安 敬子 石井 凪 橋本 由佳 佐藤 夕記子

報告：中安 敬子 Tシャツデザイン：石井 凪

卒業制作について

お題は「パーマカルチャーを身近な人に伝えるためのツールづくり」。
表現方法は自由！さてどんなことをしましょうか？

7月

卒業制作のテーマとグループ分け。

「みんなで着る T シャツつくりたい！」ということで、T シャツチーム発足！



8月

メンバーそれぞれで、T シャツのデザインを持ち寄る。

なぎちゃんの描いてくれたイラストを、バックに羽のようにデザインする？

前面はパーマカルチャーの12の原則をイラストにしてみようか？

一方、オリジナル T シャツ作成用のカタログにて、T シャツの品定め。

オーガニックコットンの T シャツ、卸値 800 円なり！



9月

ML 炎上！？きっかけは・・・

「800 円のオーガニック T シャツって不当に安くない？」その裏には何があるのだろう・・・？



綿やオーガニックコットンについて調べてみる。そして、わかったこと。

【農薬による環境破壊の問題】

- ・綿栽培における農薬、化学肥料の使用量は、全世界の農薬使用量の約25%を占めている。すごい量である。
- ・コットン畑は害虫の被害を受けると、防衛のためより強力な農薬が撒かれることになる。その結果土壌の質は著しく悪化した。
- ・農薬を減少させるテクノロジーとして出てきたのが遺伝子組み換え技術。その作物に遺伝子操作をして、害虫に強いとか、害虫を殺すとか、除草剤に強い作物に変えて効率よく除草剤を使えるようにしたものである。現在まで決定的な被害は出ていないが、長期的に見て、自然破壊やヒトの健康への悪影響の不安がある。

【途上国の人々の問題】

- ・貧困による教育機会の格差があり、農民の多くは農薬の取り扱いについての理解が十分でなく、重篤な健康被害につながっている。
- ・途上国では違法に子どもを使って、生産コストを下げていることが少なくない。子どもたちは大人よりも農薬の深刻なリスクに直面している。
- ・農薬や種子を買うために借金が増え続け、生活が困窮するという事態もおこっている。

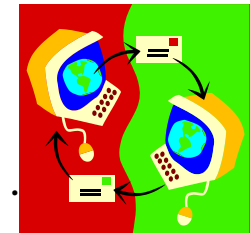


現在、日本の綿の自給率は0%。

『安く衣類を買える背景にはそれだけ生産国に犠牲を強いている』のです。

このような状況を知り、Tシャツ制作は暗礁に乗り上げる。

以下MLでのみんなのやりとり。(抜粋)



-
- 「パーカル的にTシャツをつくろうとすると、和綿を栽培し、紡ぐところからやらなければならなくなる？」
 - 「そこまで追求していくと何もできなくなってしまう。一緒に何かを作り上げる喜び・・・が薄れてしまう気がします。そのできる範囲でいいんじゃないか・・・って私は思う。」
 - 「今の自分にできることって・・・とりあえず、日本で作られてきた綿の種を蒔いてみるのかな・・・」
 - 「衣替えをしていたら、今年着なかった夏服が沢山。新たにTシャツを買うのはどうなのかな？できるだけ、『新しいものを買わない』で『一体感を楽しむ』」
 - 「新たに作ることも塾の卒業制作としてありだと思おう一方、物にあふれた一生かかっても十分に着古してあげられるのかわからないような洋服たちの詰まったクローゼットを見ると、今もっているものにアクセントのように加えられるものはいいと思う。」
 - 「卒業制作は、モノを作ること自体ではなく、パーマカルチャーを身近な人に伝えるためのツール（道具）を作り、身近な人たちに伝えて行くきっかけにすることがねらいです。
パーマカルチャーって何？って聞かれた時に、基本的な考え方や楽しそうなイメージ、希望を感じさせる価値観やメッセージなどを伝える時に役立てば、と思います。」
 - 「デザインをインクジェットプリンターで印刷できるアイロンプリント用のシートもあります。大きさをいくつか作っておけば、自分が普段使っているものに簡単にプリントできます」
 - 「8期生にだけでなく、たくさんの人に着てもらって、パーマカルチャーのメッセージがより多くの人に伝えられたらいいな—と思います。」
 - 「今回こんな現実を知って、みんなの中に大きな問題意識を起こしたことはすごく意味のあることだと思うし、そんな思いをTシャツに込めて作って、それを着るたびにそのことを思い出す、そんなツールとしてのTシャツの存在意義もあるのかな。でも着ない服がたんすにぎっしり詰まっている状態で、あらたに服を一枚買う、というのは私も少なからず抵抗を感じます。リメイクとかできたらそれもいいのかも。」

10月

デザインは、なぎちゃんが新たに作ってくれた「ONE EARTH」で決定。

さ～て素材選びが問題！！ どうする！？8期生？ 妥協点はいったいどこに～？

— せめてフェアトレードのTシャツを使おうか？

— リユースの裏返しTシャツってのがあるよ！

過剰生産過剰在庫の不要Tシャツを回収し、リユースしているNPOがあるという。

新しいものではなく、それでパーカルTシャツをつくるのであれば、まだ許せるか？

リユースTシャツのNPOに見積りを依頼。

(結果) ロット：50枚から受け付け／サイズ：現在の在庫状況はアメリカンサイズのSサイズのみ。



うーん、50枚って大きな数字。それこそ作っても無駄になる。それにサイズが合う合わないの問題も・・・解決策が見いだせない。

この件は、正解はないと思います。

50枚でも100枚でも、または、作らないという判断でもそれぞれに筋を通すことができます。

突き詰めれば、何のために作るのか？その1点に尽きます。

より多くの人に使ってもらえるようにするのか、自分たちだけで使うのか、かかるお金は変わりません。

新品のまま廃棄されてしまうTシャツが、より多くリユースできるための道筋と見ることもできれば、結局無駄になるんじゃない？という見方もできます。

また、廃棄されるものをリユースして生かすことが却って安易なモノづくりを助長するのではないかと見ることもできます。

社会のしくみはすぐには変えることはできないかもしれない。

僕たちにできるのは、僕たち自身の行動を選ぶことです。どうするかは、みなさん次第だと思います。

突っ走るのではなく、何がどうなればいいのかを、立ち止まって考えてみませんか？

(うめちゃんのメールより抜粋)

11月

なぎちゃんがネットで、シルクスクリーンを自分でできるアイテムを発見。

これなら手持ちのTシャツなどに印刷できる！素晴らしい！

もうそろそろモノを持たない時代、とケンさんが言っていましたっけ。

大量生産でなく、手仕事で 決定です！

12月のギャザリングで、みんなでプリントをすることに！



Tシャツ制作を担当して

Tシャツ作り、この課題にはたくさんの「気づき」がありました。

最初は、デザインを決めて、Tシャツを決めて、業者さんに発注すれば出来上がり！

1枚いくらでできる？ということ位しか考えていませんでした。

今回うたさんに問題提起をしてもらって、いろいろ調べていくうちに、自分たちの生活は、どこかのだれかに依存して成り立っていることに気づきました。またみんなとのメールのやりとりで、いろんな角度からのものの見方・考え方を学ぶことができました。

手をかけること、時間をかけることの大切さや豊かさに気づき、いまは“世の中の仕組みに流されず、立ち止まってみる”・・・もっと丁寧に暮らしていきたいという気持ちでいっぱいです。

8期生でつくったパーカルTシャツを見るたび着るたびに、私たちはこの安曇野でそれぞれが感じとったたくさんのことを思い出すことでしょう。そしてTシャツがきっかけになり、人や自然にやさしい、素敵なパーマカルチャーを身近なひとたちに伝えていけたら・・・と思います。

みんなの思いや願いがこもったTシャツです。大切にします。ありがとう。

(ぼぼ)

